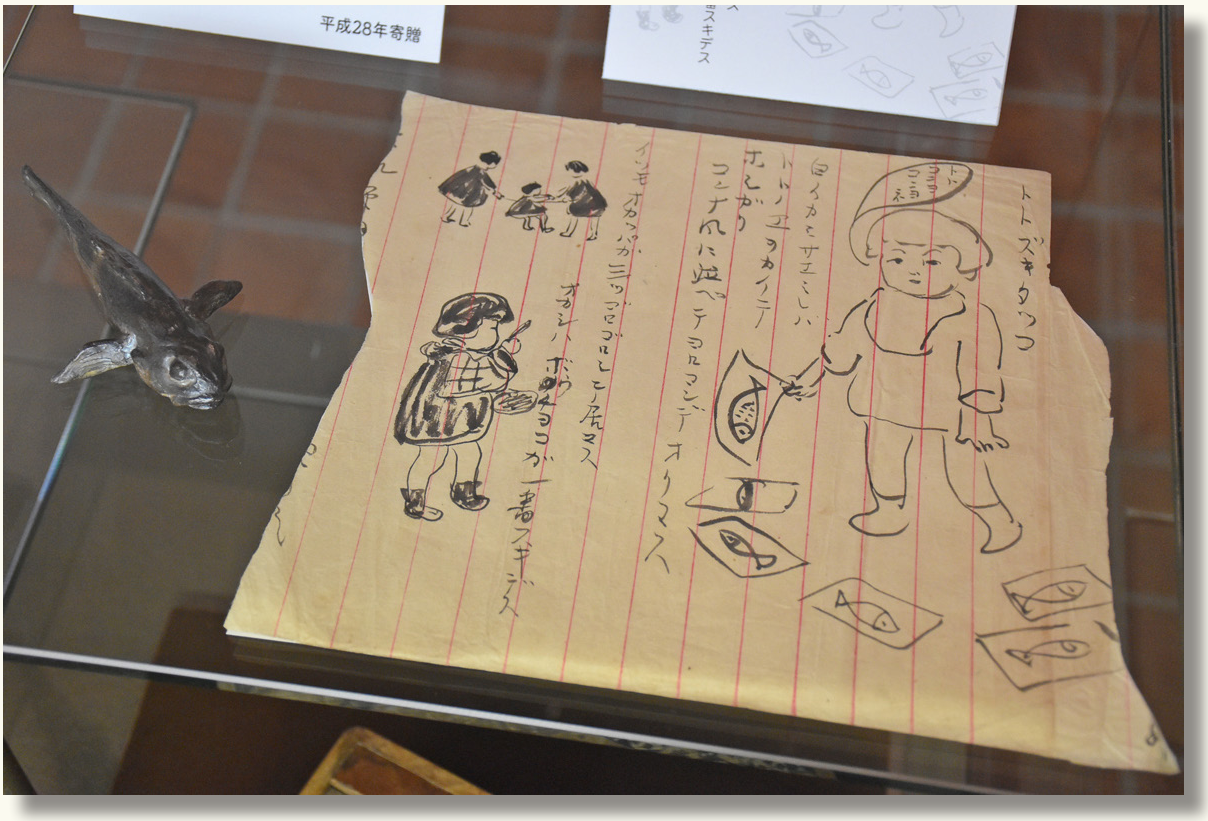
◦ 4 月 14 日（火）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 42】

実篤の妻・安子は家族の日常を絵に描きました。この絵は、まだ幼い三女・辰子の日常が描かれています。左にある銅製の魚文鎮は、実篤が安子に贈ったもの。仲の良さが垣間みえます。



〈資料情報〉
武者小路安子「家族スケッチ」
1930 年頃　紙本墨画

絵の右半分:
トトズキタツコ
白イカミサエミレバ　トトノエヲカイテホシガリ
コンナ風ニ並ベテヨロコンデオリマス
トトとは魚のこと

絵の左上:
イツモオカツパガ三ツゴロゴロシテ居マス

絵の左下:
オカシハボウチョコガ一番スキデス

◦ 4 月 15 日（水）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 43】

寄木細工が美しい文箱は、実篤が次女・妙子へ贈ったもの。箱の裏には「妙子様 昭和 14 年 10 月 9 日 實篤」と自筆で書かれています。こんなに細かい模様なのに蓋は蛇腹で、スライドで開くのです。
当時、妙子は 14 歳。素敵な文箱をもらい、さぞ喜んだことでしょう。

〈資料情報〉
武者小路実篤より次女・妙子へ贈った文箱
昭和 14（1939）年 10 月 9 日　寄木細工

◦ 4 月 16 日（木）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 44】

文学館ながら図らずもミニ動物園となったこれらは、実篤が長女・新子へ贈ったものです。新子から、誕生日に何かくれるなら動物の小さな置物がほしいと言われ、毎年プレゼントしていました。

みんなで何やら相談しているかのようですね。

〈資料情報〉
武者小路実篤より長女・新子へ贈った動物置物
亀から右まわりに、
亀　塑像
亥（いのしし）塑像
犬　塑像
獅子　金工
馬　石彫か
鹿　木彫

◦ 4 月 17 日（金）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 45】

前回に引き続き、実篤が新子に贈った彫刻です。当初、実篤は自分のためにこの作品を手に入れましたが、新子に懇願され、大切にする約束でプレゼントしました。

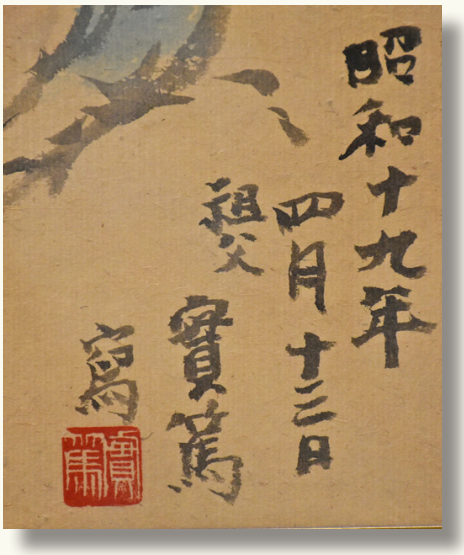
佐藤玄々は朝山の名でご存じの方もいるかと思います。今も日本橋三越本店にある「天女（まごころ）像」の制作で知られる彫刻家で、昭和 35（1960）年の除幕式には実篤も立ち会いました。「鳩之子」は箱も立派なので、ここだけでご覧に入れます。

〈資料情報〉
佐藤玄々「鳩之子」
木彫

◦ 4 月 18 日（土）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 46】

家族が大好きな実篤は、もちろん孫も大好き。長女・新子の長男で、初孫の雅世（まさよ）をとても可愛がり、たびたび絵に描きました。署名にある「祖父」という文字からも孫を得た喜びが伝わってきます。



〈資料情報〉
武者小路実篤「雅世像」
昭和 19（1944）年 4 月 13 日
紙本墨画淡彩

◦ 4 月 19 日（日）掲載

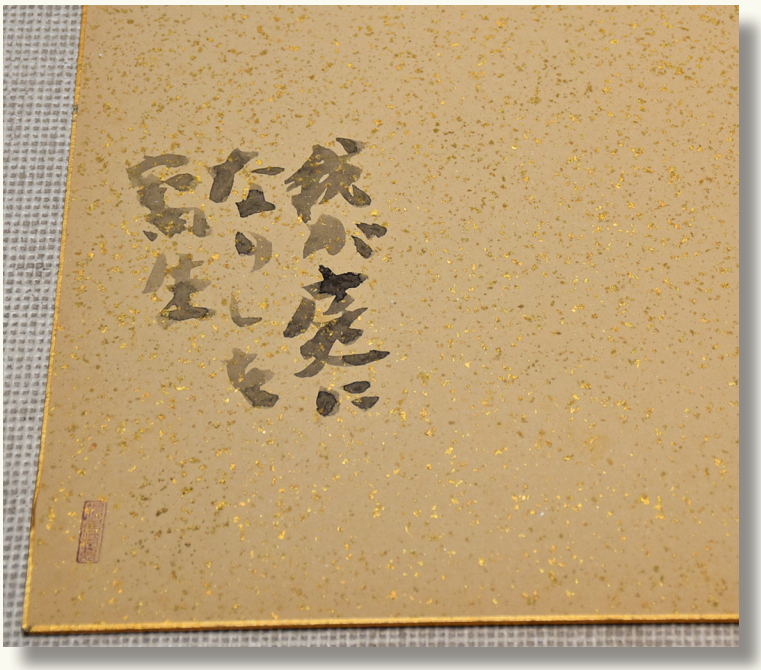
【#おうち時間で実篤を知ろう 47】

今回は趣向をかえて、展示ではお見せできない「裏側」を紹介。おうち時間で実篤を知ろう 44 で紹介した馬と鹿、45 で紹介した佐藤玄々「鳩之子」の裏側はこんな感じです。細かく丁寧な仕上げです。

◦ 4 月 19 日（日）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 48】

この作品、「我が庭になりしを写生」というちょっと詳しいタイトルになっています。その秘密は「裏側」、実篤の自筆で覚え書きがあるのです。



〈資料情報〉
武者小路実篤
実「我が庭になりしを写生」
1960 年代　紙本墨画淡彩

◦ 4 月 21 日（火）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 49】

心に触れる美術品を日常的に見て楽しんだ実篤。新収蔵品の中にも実篤愛蔵の作品があり、この絵もその一つ。「J.Marchand」の署名から、ジャン・イポリット・マルシャンの素描と考えています。

実篤は美術品の感想を多く書き残しているので、この絵についても文章はないか、まさに今、学芸員が調査中です。

〈資料情報〉
ジャン・イポリット・マルシャン　風景
1913 年　紙・ペン
実篤愛蔵品

直近に刊行された小学館版『武者小路実篤全集』は 1 冊およそ 800 ページで 18 巻。収録されていない本や雑誌も多くあるので、調査はいつも難航します。しかし、思わぬところで面白い文章が見つかることもあり、楽しい作業でもあります。こうして見つかった新発見は、展覧会などで紹介していきます。

◦ 4 月 22 日（水）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 50】

時代や国をこえ、さまざまな美術を愛した実篤の愛蔵品には、インドのタゴールの画帖もあります。展示では一面しかお見せできないので、ここだけで特別に他のページも紹介します。

お気づきの方もいると思いますが、タゴールは一家の名前。画帖には、ファミリーネームのほかに、オボネンドラナート、オボニンドラナード、カゴネンドロナートと、個人名がカタカナで付記された絵もあります。絵だけでなく、ヒンディー語のような文字もあります。

〈資料情報〉
タゴール　画帖
紙・鉛筆・彩色

担当学芸員はタゴールについて調べるため、インドの博物館のデータベースを検索する日々をおくりました。日本近代文学・美術を研究する当館ですが、専門外の調査もあるので、日頃からアンテナを張り巡らせています。

◦ 4 月 23 日（木）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 51】

今回は実篤の友人の作品を紹介。彫刻家・高田博厚（1900-1987 年）のコンテ画です。高田は長年フランスで活動し、実篤の欧米旅行では通訳としてピカソのアトリエに一緒に行く間柄でした。

立体的に形を表現する彫刻家が、平面だとどう形を表現するのか、という視点で絵を見るのも面白いかもしれません。

〈資料情報〉
高田博厚　裸婦
紙・コンテ

◦ 4 月 24 日（金）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 52】

バーナード・リーチ（1887-1979 年）は雑誌『白樺』の活動を通して実篤と親しい間柄でした。陶芸でご存じの方も多いと思いますが、もとは銅版画家で、白樺の仲間たちに銅版を手ほどきしました。

この作品は小さな木版画です。ぱっと見たときにどの方向で展示するのが正しいか迷ったのですが、実篤の本に使われていたことから、正しい向きを確かめることができました。

〈資料情報〉
バーナード・リーチ　鳥
紙・木版

〈資料情報〉
武者小路小集
大正 12-13 年　新しき村出版部

◦ 4 月 25 日（土）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 53】

この美しい曲線、木で作られています。黒田辰秋（1904-1982 年）は木漆工芸で人間国宝となった人物。実篤の誕生日や御礼など事あるごとに紙刀（ペーパーナイフ）を贈るなど、交流がありました。

20 ～ 30cmほどあり、ペーパーナイフとしては少し大きく感じます。実篤の孫たちは小さい頃、おじいちゃん（実篤）からこのペーパーナイフを借りてちゃんばらをしていたとか。それでも薄い刃先に目立った傷は見当たらず、実用の美、さすが黒田作品と唸ってしまいます。

〈資料情報〉
黒田辰秋　紙刀
木彫

◦ 4 月 26 日（日）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 54】

谷内六郎（1921-1981 年）が絵を描き、実篤が書をしたためた作品です。谷内は『週刊新潮』の表紙絵を長く担当した人物で、この作品は谷内が 40 歳、実篤が 85 歳の時に制作したものです。

懐かしい日本の情景に「花は美しいね」というやさしい言葉、その良さを実篤流に言うと「ぴったりしている」という言葉で表せます。美しい木目の額縁は、おうち時間で実篤を知ろう 53 で紹介した黒田辰秋の制作です。

〈資料情報〉
絵：谷内六郎　書：武者小路実篤
「花は美しいね」
1970 年　紙本墨画淡彩

◦ 4 月 28 日（火）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 55】

梅原龍三郎（1888-1986 年）の牛に乗る女性の彫刻と、高田博厚（1900-1987 年）のトルソ。同じ女性像、同じブロンズでも全く異なる作品に、作り手の個性や表現の多様さを再認識させられます。

梅原は日本近代美術を代表する画家で、たびたび彫刻も制作しています。実篤とともに雑誌『白樺』で活動した人物で、生涯にわたって親しい友人でした。

〈資料情報〉右より、
梅原龍三郎　牛と女
ブロンズ

高田博厚　女のトルソ
1961 年　ブロンズ

◦ 4 月 29 日（水）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 56】

長與善郎（1888-1961 年）は実篤とともに雑誌『白樺』で活動した文学者で、絵や書も嗜みました。字と字、線と線、いろいろな視点で見比べると、毛筆の多彩な表現に見飽きることがありません。

〈資料情報〉右より、
長與善郎　五月人形
昭和 20（1945）年か　春
紙本墨画淡彩

長與善郎「唯有松風虫鳴」
紙本墨書

長與は少年時代、画家になりたいと思っていた時期もありました。実篤をはじめ『白樺』に集った文学者の中には、本格的な絵を描く人物も多かったのです。

◦ 4 月 30 日（木）掲載

【#おうち時間で実篤を知ろう 57】

詩人として知られる千家元麿（1888-1948 年）は美術にも関心が高く、絵も描きました。左上は果実がごろごろとする「動」、右下からは白い布の「静」を感じ、構図も楽しむことができます。

〈資料情報〉
千家元麿　静物
キャンバス・油彩